

横浜市栄区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会（第2回） 会議録	
日 時	平成27年3月23日（月）14時30分～17時45分
開催場所	栄区役所 新館1階 会議室(予防接種室)
出席委員 (敬称略)	芦川弘、磯崎保和、大森真由美、奥代智子、豊田宗裕、村田可代子 (五十音順)
欠席委員 (敬称略)	なし
事務局	小山 福祉保健センター長、多田 福祉保健センター担当部長、 守屋 福祉保健課長、鳥山 福祉保健課運営企画係長、 宮崎 福祉保健課運営企画係職員
開催形態	公開（傍聴者2人） ただし、議事2（2）、3、5については非公開
議 事	<p>1 定足数の確認 選定委員6名出席によって、委員会の成立を確認する。</p> <p>2 選定方法の確認 (1) 委員会の公開・非公開 「資料 横浜市の保有する情報の公開に関する条例」の確認を行い、面接の様子は公開するが、選定に関する審議は非公開とすることを確認する。 (2) 選定委員会の進め方 ア 「資料 進行予定表」の確認を行い、審査はプレゼンテーション10分間、質疑応答5分間で行うことを確認する。 イ 「資料 評価項目及び評価基準、審査基準について」の確認を行い、審査の方法及び最低基準点が720点であることを確認する。</p> <p>3 財務状況の報告 【参考資料】応募法人財務状況調査結果の確認を行い、すべての応募法人の財務状況について確認する。また、応募法人の財務状況に関する採点を行う。</p> <p>4 応募法人によるプレゼンテーション及び質疑応答 (1) プレゼンテーションの実施 「社会福祉法人横浜市社会福祉協議会」、「社会福祉法人 同塵会」、「社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会」、「社会福祉法人 杜の会」、「社会福祉法人 訪問の家」によるプレゼンテーションを行った。</p>

(2) 質疑応答

ア 社会福祉法人横浜市社会福祉協議会

- (委員) 職員が利用者対応を行う際に、意識していることは何か。
- (法人) 利用者の視点に立つことを意識している。それぞれの利用者の価値観や思いを常に押さえながら、コミュニケーションを行っている。
- (委員) 防災対策や発災時における組織としての対応はどのように行っていくのか。
- (法人) 特別避難場所マニュアルを作成するだけでなく、職員それぞれが発災時どのような役割を担うのか、常にわかるように職員の名札の裏に工夫を行っている。また、ケアプラザの特別避難場所の役割に関するチラシを作成し、地域の防災訓練等において周知を行っている。
- (委員) 福祉教育に関して、地域と学校との連携に加えて、今後は企業とも連携をしていきたいということだったが、具体的にはどのようなことをしていくのか。
- (法人) 地域に対して何か貢献したいと言う意識の高い企業がたくさんあると考えており、今後具体的に何か共にできないか企業に打診しているところである。今後も企業の通常業務に支障のない範囲で、出来ることは何かということを発信し、地域と企業をつないでいきたい。

イ 社会福祉法人 同塵会

- (委員) 新規のボランティアを確保するための手立てはあるか。
- (法人) 従来のボランティアの募集だけではなく、現在は中学生に注目している。近い将来のボランティアの育成として、日ごろから地域、地域住民に愛着を感じて、ボランティア意識を持ってもらうべく、地域事業に参加してもらえるように働きかけている。
- (委員) 現在サロンは地域にどのくらいあるのか。また、どのような状態にあるのか教えてほしい。
- (法人) 地区別計画に乗っ取ったサロンが3か所ある。それ以外にも空家、集会所、マンションなどにさらにたくさんある。現在は、それぞれのサロンにおいて話を聞くなど実態把握に努めている。
- (委員) 地域福祉保健を担う機関とのネットワークについて、現在はどのように展開しているのか。また、これからどのように展開していくか説明してほしい。
- (法人) これまでは、職員とボランティアや様々な機関の職員とそれぞれで情報交換を行うことが多かったが、これからはそのつながりをさらに強化していきたいと考えている。そこで、今年度においては、講師を招き、ボランティアや様々な機関の職員に一堂に介しての研修会を行った。
- (委員) セーフコミュニティの周知をどのように行っていく予定か。
- (法人) 名札にセーフコミュニティのロゴを入れて、日ごろから周知に努めている。また、区役所の職員を招いて、セーフコミュニティの説明

をしてもらうなど、日ごろの活動の中に、そういった時間を作って、地域の方にセーフコミュニティのことを知っていただくように意識して事業展開をしていきたいと考えている。

ウ 社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会

(委員) 様々な事業や企画を実施して、職員はどのように感じているのか。また、実施した効果を次へとつなげる計画はどのようになっているか。

(法人) 今まで地域の方とのネットワークづくりを目標に関わってきて、栄区ならではの「つながる、ささえあう、その手で。」という良い風土がここには根付いていると感じている。どのエリアの方とも良い関係が構築されつつあるので、今後も地域の中に社会資源を増やしていく手伝いをしたいと考えている。

(委員) 一人暮らしの方が外に出てくることができる環境作りはどのように行っているのか。

(法人) 現在、民生委員が一人暮らし高齢者見守り推進事業で、一人暮らしの高齢者の方の訪問を行っているのだが、そこで心配な方がいた場合には、話を聞いたうえで、事業への参加を勧めるなどしている。

(委員) 包括支援センターに関する用語をわかりやすくしたのは大変良いと思うが、変更した結果はどうか。

(法人) この変更は法人を挙げて、アイデアを出し合って行った。その結果だが、変更してからまだ間もないので、これから出てくると考えている。

(委員) 人材の育成や人材の交流、人事異動も含めて、管理している施設で色々な特色があると思うが、人材を配置や育成する際に何か特徴付けていることはあるか。

(法人) 特徴付けというよりは、バランスを良くしていくということが大事と考えている。1つの施設に長くいると、経験だけで仕事を進めていくようになってしまう。ほかの施設で新しい問題に直面していくということも大切だと思うので、色々なことを経験してもらおうと考えて配置をしている。

(委員) セーフコミュニティの推進はどのように行っているか。

(法人) みんなで見守るネットワーク作り、高齢者の見守り、介護予防等を重点的に取り組んでいる。また、私たちが開催しているいたち祭りでセーフコミュニティに関してのクイズを作るなど、地域の方にセーフコミュニティを伝えていくということをやっている。

エ 社会福祉法人 杜の会

- (委員) 中野地域ケアプラザの周辺の地域性をいかした企画やプログラムは考えているか。
- (法人) 山坂が多い地域で、なかなかケアプラザも利用しにくい問題もあるので、地域の方と一緒に問題を解決する糸口を見つけられたらと考えている。
- (委員) 子育てを中心にする若い世代と、高齢者支援を中心とする年配のグループとの間を埋める手立ては考えているか。
- (法人) 様々なニーズに対応して、事業展開をしていかないといけないと考えている。高齢者の方はケアプラザまで出て来られないというのもあるので、これからはアウトリーチということで、出前講座等を行い、支援をしていく必要があると考えている。
- (委員) セーフコミュニティの推進はどのように行っているか。
- (法人) セーフコミュニティについては、元気づくりステーション立ち上げの協力や、出前講座の開催をとおして、地域に健康づくりのグループ立ち上げを行い、社会資源を増やしつつ、セーフコミュニティに貢献したいとは考えている。
- (委員) 一人暮らしの高齢者の方に情報が行き渡らせるためにどのような情報発信をしているのか教えてほしい。
- (法人) 出前講座を開催して、そこでPRをしたり、民生委員に訪問時のチラシ配布の依頼をするなどしていき

オ 社会福祉法人 訪問の家

- (委員) 職員として、地域の方と関わるときに、一番大切にしたいということで共有していることは何か。
- (法人) 一番大事にしていることは、利用者の話をよく聞くということである。利用者の声をどうしたら実現できるのかということ、職員でよく話し合い、共有している。なかなか実現できないことももちろんあるが、まずはとにかく話を聞いたら、それをどう実現するのか話し合うということをしている。
- (委員) 子どもたちの未来につながるような地域活動を支援していきたいということを述べられていたのが印象的だったが、具体例としてどのような事例があるか。
- (法人) 「聞き書き」という事業を行っている。高齢者の方の話を聞き、一冊の本にまとめ、中学校の図書室で閲覧できるようにしている。そこから発展して次回は朗読劇を実施する予定である。
- (委員) セーフコミュニティの周知に関してどのようなことを行っているか。また、防災対策について具体的に教えてほしい。
- (法人) セーフコミュニティでは、ヒートショックの危険性について利用者にチラシを配布し周知するなどして、セーフコミュニティに貢献している。

災害対策は、要援護者避難支援の取組を各自治会の方たちと一緒に、防災マップを作り、実際出来上がったマップで防災ウォーキングを実施しようという取組がある。

5 選定作業

(1) 採点・意見交換

(委員) 提出資料の書き方が法人もよって大きく違っていた。

(委員) 事前評価とプレゼンテーションを受けての採点が大きく変わった。

(委員) 栄区のケアプラザは指定管理業務を一生懸命やっていると感じる。

(委員) 選定において、提出資料の印象は大きいと感じたのと同時に、文章の中に示されていない事業などもいっぱいあるんじゃないかとも考えた。そこがプレゼンテーションでは伝えきれず、もったいないと感じた。

(委員) プレゼンテーションの時間が短いと感じた。

(委員) 今後は区ごとに選定方法を変更するのも良いかもしれない。

(2) 集計結果

応募施設	応募法人	審査結果 (満点 1,260 点)
豊田地域ケアプラザ	(福) 横浜市社会福祉協議会	1,051 点
笠間地域ケアプラザ	(福) 同塵会	1,067 点
小菅ケ谷地域ケアプラザ	(福) 横浜市福祉サービス協会	1,053 点
中野地域ケアプラザ	(福) 杜の会	1,011 点
桂台地域ケアプラザ	(福) 訪問の家	962 点

すべての応募法人が最低基準の720点を超えているため、応募法人すべてを第3期指定管理者の指定候補者とすることを決定し、以上の結果を栄区長に報告するものとする。

資料
・
特記事項

1 資料

(1) 次第

(2) 横浜市の保有する情報の公開に関する条例

(3) 進行予定表

(4) 評価項目及び評価基準、審査基準について

(5) 参考資料 応募法人財務状況調査結果

2 特記事項

指定管理者に指定するための議案を9月に予定されている第3回市会定例会に上程する。